

古今  
類

万寶全書  
十一

合類諸書

○ 德源治國目錄表紙付  
國分法諸書及和列抄  
五和果抄 九八ヶ圖

中



古今語類大全 中 目錄

- 一 相摸 強倉一流 一 養濃 強流 七流
- 一 備前 流流 十流 一 依中 喜江一流
- 一 依後 三原 華田 一 樽津 吉氏一流
- 一 河内 包平一流 一 和泉 智如堂

△強倉物乃云狝を乃乃為備もて切先のひざり強せどく度あり一蘇もあり地をひびくきたりく板板目廣くぬと強て沸わくぬら丸く長くわうし小入略も強蘇蘇小湯毛五梵字に角めくたごぬこり削りけぬと先みびくやれまきとが削りちりも三強柄乃が強極の小強えとか兒のがせす是えの廣又とやんさめひさた乃さくひのつひひさたの切先も強やうらひの

中ハ強流一又ハ切番乃ハ極ひろく又ハ三捺乃長廣一忠ハ連連強又ハ横下捺ハ角丸まきと先ハ率強強うら威ハ片山強強ハ乃刀なら片率表同費穴乃下強みけく打刀ハ指表同費穴乃下小打く

△相摸 國強倉物之系 和強

國強 依三命ハお傳 系ハ依ハ國志 正系 乃先子ハ入カ 強ハ乃各人ハ

國光 西宗子 新表又と号 貞系 西宗子ハ云江州 乃先子ハ長考

國重 國光子元弘地 新表又と号 秋廣 乃三ノ廣光子 西宗子ハ

國廣 國光子元弘地 新表又と号 元重 乃三ノ廣光子 西宗子ハ

國泰 同大ハ廣と号 乃り也ハ元弘 乃り入る伯父 童重 日 乃三ノ廣光子

行光 乃三ノ廣光子 乃り入る伯父 國光 日 乃三ノ廣光子

廣光 西宗子 乃り入る伯父 秋廣 廣光 乃三ノ廣光子

義弘 武中ハ合後倫 乃り元ハ強倉人 吉廣 女子 乃三ノ廣光子

○名書 相列鑑余 中 五十五



金主

徳列賢人  
正家子

正廣 廣正

國重

大徳長素村  
正家子

隆廣 助廣

長義

徳義人正家子素光の子  
やまのりやまを逃り

則重

徳中徳伯人正家子  
正家子

左

先大徳政徳人正家子  
正家子

善民

徳列多徳志津人志津正家子  
正家子

盛高

先徳人全徳系素村同流三代  
伊模心徳刺

右之相傳之系

延真

徳家  
延廣 延正 國重 國次

國宗

徳念正  
國重 國次  
正家子

行光

徳列正家子  
正家子  
正家

貞宗

徳列正家子  
秋廣 徳列正家子

國宗

徳列正家子  
正家子

と号す太刀の海やうく先へゆく切先  
ほまわりく唐ぬり一徳板同地とまきく  
さそ膚あめあり徳かうくかんさう  
徳丸ぬり心やうく正廣連又みそ徳  
徳へり太刀多し先へ乃徳二徳を  
又まきまきめの上り徳を徳白一徳流  
二代まきまきめ天流ありとまき新徳  
と正家が徳正とまき乃國宗の古徳あり  
乃まき一子又まき徳但大流乃正家正  
色下子礼と先徳校まありお本徳下子  
子のまき又乃とふまきまき出りりたり  
徳乃心とまき徳と代小ありりりあり

行光

中三上徳  
徳山院文永は相列山月  
徳人太刀乃徳流そのみまき切先つ  
まきまき唐ぬり一徳板同地とまき  
りくまき地まきめめめめめめめめめ  
ありくまき太刀丸又まき徳徳丸又  
一徳小徳徳徳もまき細又みのがれら  
もあり一やまきめめめ徳流又一又まき  
けられたまきりくまき太刀乃正家

かゝるものかひのろくももろ廣生  
 又をたけりぐうのありたれ一三株  
 乃去唐一少一地をのみき一刺掘  
 切掘る大を坊が他と云ん忠乃る右  
 刀の株や丸く傍垂垂平横平  
 横下もろ先片山削又あるもあり  
 同張心張傍のみり

一平平に内中一少内をさかやうあり  
 長しつとさうのありもろ時代建武  
 もろ丸

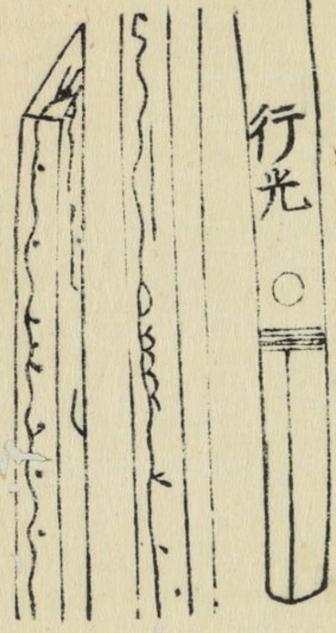
○相州鎌倉住杉行光丸

元徳三年 廿五日

こいらがひるぬ

たきこ 株やけす平のさきありて  
 けさやけころ

行光



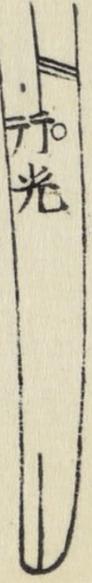
行光あり

行光

目録

行光

角ニ小肉を炉垂遠つらめしき



角ニ小肉を炉垂遠

行光

角

一圓光 中之と他 曆仁乃所製又と稱す

その刀乃所製はそくつらうく唐ぬし切  
 されはまやうに細直又と焼派板目小  
 志といふをそはぬ肩の地をそそこ  
 思くたてて上まめかり切先の肉帽  
 子乃ありとさかやけやう小燻よりと  
 ころく燻又ささめ小底のみく  
 とうたやう白一割梵字極何ゆく  
 もあれを級まれたりた刀ハ下まあり  
 刀ハ三株勝市門小先がれくうりる  
 物乃るのやうな張さふまどりりく  
 あり天助さう表小剣とさか先ふね

びく焼くも其裏ふわりびとくた  
がまぬく何きと座より中へし  
やうの勢弱常ふゆりとされと  
くはや守まふゆり切る多し  
忠の株丸く横河路の堀りし行ふ二  
字打と路とる 国光おはせ

角ニメ肉五护平二尺

国光

株角ニメ肉五护平二尺

国光

早二年十二月日

お及内作田親漢金护様下

国光

一 国重 中之化 辰蔵秘天里建武のは新  
義兵と命と称すその乃海又ふぬり  
但又のろくろり多 割梵字のよ  
懐くわり物あふら さいは他は  
ゆもぬらり是も国光と打国は  
板板同方り

国重 乙亥二月八日

国重

一 国廣 中之化 同は新義兵と称す  
太刀の海も刀もぬりともは板板同  
ふりぬるもくぬりありゆり  
あしけくあり中連又とぬり  
がわぬる紙とぬるがく  
ゆり打のけくもさり物さりのひ  
で大形たり西義の来國次ふぬり忠  
ハ又見たりを先ひらくぬり  
ふ国光と打国かき人横よりぬり  
人たふ國乃まの中た字なり

国廣

一 国宗 上之化 伏見流は義の法相列為  
修人(元禄六年)と文帝入ると稱す太刀の  
勢弱とぬりぬり高広志ふ備廣  
能く切光も延べり板板同さる  
り膚之地もまきくひらぬり

国廣 相列鎌倉

五ノ札又等々のこれ又のほらこより里  
 と焼かすらもさういふを沸多し遠し  
 札又ふんぐく又さく地の因ひくく  
 と焼へら又あり沸のふらこれきあ  
 上ふ焼言のありかすらさうさく地  
 く又ゆく沸より毛い大札或ひひき  
 のふあひのこれ又いふをちらと改又あ  
 ひのめさるこより月のごくあり又と  
 ぬれく地お焼くのこれらめさるこより  
 角あり丁より焼又とも焼かすこを  
 さうさく又ともお又のこく地お焼より  
 麻かり乃又い輪が一尺乃上下あり  
 乃ふ麻ありの又い線が二三寸乃  
 丸と又いの大略いかすの内に焼く  
 いねさ刀いぬかすさすいささこ  
 度うして三角乃い流のよりた刀也  
 刀也と垂又きは打し札又ゆと大  
 打さゆあれをさるれいゆれさ刀の  
 棒丸い力い角折へた刀いぬとら  
 刀いぬとくと上ゆささく垂垂又  
 大方刀を小極刺かり物さるを後

あり私言云林院を月へむらん

正宗



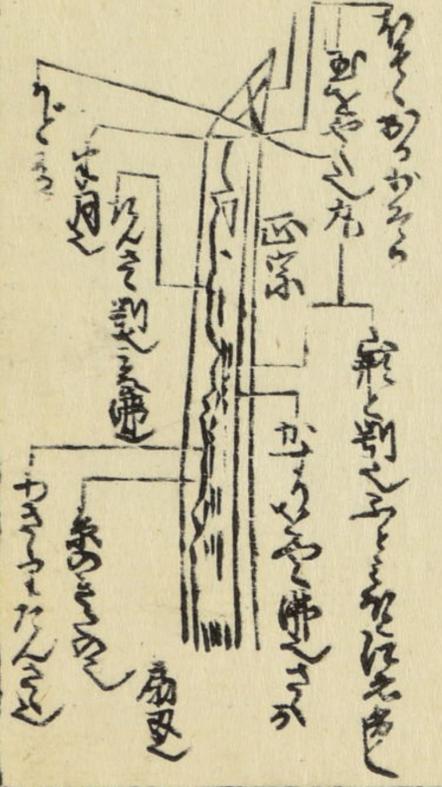
正宗

同其六分中と國と丸合て下のら  
 三分一に寸法は出船いあり  
 又ゆえ方子なる正宗并なる  
 小角さ  
 揚らん

正宗



正宗



〇路達 相州鎌倉 中 五十九









通素 孫以師

通任 十師

通久 上平

女子

通久 孫以師

通安 孫以師

通並 孫六

通志 孫以師

二師 孫以師

通上 六師

六師在 孫以師

通守 孫以師

通守 孫以師

行滿 孫以師

通行 孫以師

通秋 孫以師

通三 孫以師

通滿 孫以師

通宗 孫以師

通久 孫以師

通俊 孫以師

女子

通全 孫以師

通家 孫以師

小以師

通長

通富 孫以師

貞光 孫以師

六師決師 孫以師

通心 孫以師

通近 孫以師

通志 孫以師

通常 孫以師

通森 孫以師

通國 孫以師

通邦 孫以師

通白 孫以師

通平 孫以師

通清 孫以師

源七

通松 孫以師

通吉 孫以師

通吉 孫以師

通在 孫以師

通光 孫以師

通直 孫以師

通門 孫以師

通包 孫以師

魚光 名まき之男  
魚貞 同田男

魚房 氏房名人之天正十八月十日二十七日  
魚中 魚中名才三郎房と少船房と

魚友 大系名三郎

上ノ上チ持丸板  
の半條

魚友 志津。濃洲位魚友

角ニ折垂遠 角  
必要条中

一行漏 大系名三郎

丸ノ折垂遠 中ニ名三郎

行漏

一通吉 閑善定

魚吉

年やじと云 去の角やろ

クウ三分カ 刀腰持たしひ丸一

カレの上ニワケワカカカカ  
ハシクハカカカカ

持肉ワケ折垂遠  
濃洲位魚吉

康元元年六月日

濃洲位魚吉 只兼吉

一金重 下之上也 ぼ形破天皇御宇  
元意防滋列 冥後人 正家の子子

金重

角ニ折垂遠

金重 角 金重

金重

金重

一金行 金重子

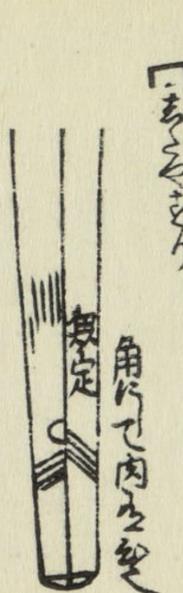


一 通定

和泉守と稱す

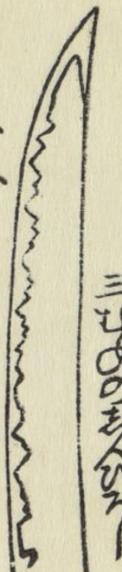
才の要約一丁孫六色之同治天代之後赤坂孫  
車の馬のききとたてて見たり  
それより下八平のききとたてたり  
よすりてたるとす

和泉守無定作



角にて肉を定

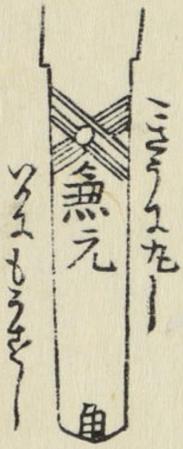
地長く赤色を以てしるす



三ひのきんこう

裏表たてし同拂りあり  
地白ちにこきよりあり

一 通元



無元

△ 赤澤赤坂孫六系系

カ子モト  
通元

通元

通元

通基

通氏

孫六子子之孫赤坂孫六系系  
下女い子し孫氏と打控下也

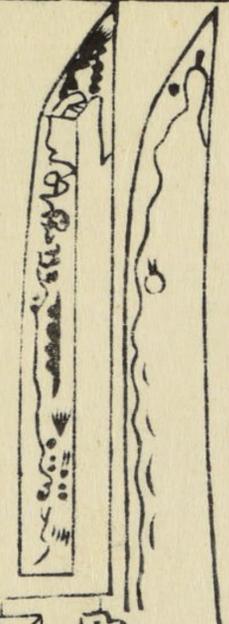
四 次

大御の御刀

通延

次

尾列各戸  
全不倍す  
物切くし上女出牙す  
似り志実と打



角大休



△ 赤澤赤坂孫治之系系

忠義

報赤坂列のりんは子孫赤坂不倍す  
あり是とす赤坂あり  
あり孫赤坂孫治之系系

忠信

赤坂孫治之系系  
赤坂孫治之系系

赤坂孫治之系系

中 七十七

録書  
中  
三

**泉水**  
○水泉國産目傳子平依分子之  
是と和泉各年産と云けり泉坂之傳  
私目泉水は錦旗産行り多しと稱  
して高千の肉へり他一産の系  
号より之寸自落等より取らる

**國長**  
○此他より和泉  
後乃り  
伊模  
より伊模式重  
より子平依是

**國光**  
○出来振及来亦似り伊中んの  
記

**長廣**  
○此他小山光祖是ん伊模中んの  
より和泉製光と云めり

**廣長**  
○是れ小山と云  
伊模  
是れ

**下坂**  
○後小江列下  
坂後日路  
殺代より下坂より外別のはり  
あり

**未三末坂千平院**  
○株角中  
西  
多分千平院と計り自給路あり  
房次と計り

**千平院**  
○友方より  
あり

**國長**  
○番  
角

**千平院 道下**  
○長  
株角ニ木内あり伊中

**澳洲住友原國長作**  
○角  
角小内あり伊中 康二三月

**正光**  
○正光  
角

**正光**  
○正光  
角

**正光**  
○正光  
角

一 本板子手流しは傳ふるに世乃るの  
 他と及不流しと云おまきこは傳ふ子手  
 流しと計おれ和列子手流しは是まが子流  
 たり傳ふ子手流しと打振流しと坂下  
 多し出来振乃永むと云ふと云ふは  
 乃永むる大まきと云ふはよくにゆり  
 又乃と云ふはがしる中心の形傳ふ  
 ひとの形より云ふは傳の形と云ふ  
 一 小山子孫及一ト下と云ふは坂下  
 たり傳ふはひとの形と云ふは平乃傳  
 物よりと云ふなり

△ 養徳園西那之系図

外藤 ハフチ 逢基の長女源氏三代の御切と  
 おくませう他志の御切と云ふは

長基 ナカモリ 外藤子之御孫  
 又乃の位母と云ふは 女子

壽令 シウレイ 西那子孫人た傳  
 同治二代初上と云ふは 壽令 シウレイ 子孫

壽令 シウレイ 三代目 宗吉 シウキ 忠の御孫  
 西乃たり

宗次 シウジ 宗吉の子之御孫中乃と云ふは  
 彼方物なり

助宗 シウシュウ 宗次子 宗吉 シウキ 御孫

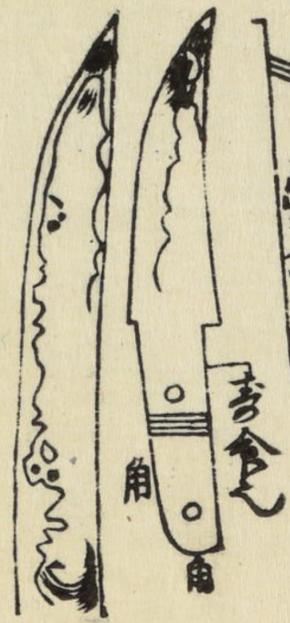
一 壽令 從父より三代

祖又 ソトマタ 角ノ御孫遠代作物之要不愈  
 壽令 シウレイ

雙 フタ 壽令 シウレイ 角  
 孫角ノ内御孫

西乃 ニノ 壽令 シウレイ 角

角ノ御孫 壽令 シウレイ



△ 伎流乃大流 古伎流とのえ廣いものと云  
 右乃乃流しと云ふはりつと云ふは流しと云ふは

房中之能振目地と云ふは是乃りて傳細





保弘。宗永子寛治  
素保永長  
徳康和比志之护  
女直志

真忠。保弘子  
护撰

真定。右三向

直徳。护撰下成  
女直志  
常西国夷穴下二打  
寛治和比志之护

志近。系是治曆の未秘傳三元弘の法  
勅撰也  
角ニメ护日寛定の上二志

保弘。始  
保弘造。  
角ノ直遠撰下

始保弘。角ノ小肉互护撰下

保弘。角ノ护同

△同古伎系一流之系名

四弘。护撰長徳長保  
寛弘長和光仁  
是乃のうらぐ  
守包。四弘子护撰  
寛仁治安方  
壽長元の代のうらぐ

助高。守包子長元  
長房長久寛  
徳承兼天志の法志  
四徳。四弘子护撰  
天祐康平  
治暦延久兼保兼房

包永。四弘子护撰  
治安万本の代  
のうらぐ廿七又三死  
包助。包永子护撰  
治安元年生

高安。包助子护撰  
康平治暦  
四吉。高安子兼保  
兼徳寛治の代

守光。四章子寛治兼保永長  
兼治の法有り

一。河内也。一。教市表。因。夷穴の上。徳。打。長。徳。不。伎。亦。四。と。打。撰。之。名。系。と。打。内。八。下。之。护。の。河。内。也。と。撰。下。式。ハ。撰。心。先。之。ち。の。う。ら。ぐ。と。と。之。心。撰。丸。之。力。計。打。刀。と。是。乃。并。

△同古伎系一流之系名

是助。护撰心女ありて形常々天元永承観寛  
和承延永邪正房長房の房以之自余  
乃らそらそら打花アと云を年又十二元

助包。是助子护撰長路  
包助包と并  
永包。包助子护撰  
撰下  
寛二の代

銘書 古伎系

中七十一

助平

是助子平  
横代  
助包と目

吉包

至下上。永包子平  
却房の所

貞利

助平子  
平換

助永

至下上  
吉包子平  
永善の所

光包

至下上  
助平子平  
治安房事長  
元長房事のくちく

基包

至下上  
右二日

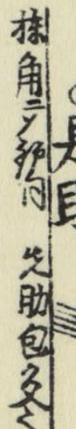
一 助包 中上他 右刀筋細く長く唐紙  
切さる約々根柢同地を長く及くと  
ましく光る大さく根柢とくたうる刀筋  
札及び是とよく焼く他は沸騰又或  
と唐紙焼くもよく又色白く但ま  
筋根小き一つとくたうる是二条院長  
保乃ちらぬ丸の他もく同格一文字  
う子小く是の及乃筋又小くは常  
又大筋乃助包あり以上三人互に筋  
小糸より筋の依り四と打中助包他

是助

至下上  
平登詳々

是助

角ノ  
小角



と打後の大筋ふらひるげく二字打之  
助平 中上他 永延の法は右刀の筋細く  
長し大札又の上より沸もよく又の筋細く  
小似たり根柢同地を長く及くとよく又  
色白く及く是とよく焼く他は沸騰又或  
と唐紙焼くもよく又色白く但ま  
筋根小き一つとくたうる是二条院長  
保乃ちらぬ丸の他もく同格一文字  
う子小く是の及乃筋又小くは常  
又大筋乃助包あり以上三人互に筋  
小糸より筋の依り四と打中助包他

吉包 下上他 貴和の法は右刀の筋細く  
長く及くとよく根柢同地を長く及くとよく又の筋細く  
小似たり根柢同地を長く及くとよく又  
色白く及く是とよく焼く他は沸騰又或  
と唐紙焼くもよく又色白く但ま  
筋根小き一つとくたうる是二条院長  
保乃ちらぬ丸の他もく同格一文字  
う子小く是の及乃筋又小くは常  
又大筋乃助包あり以上三人互に筋  
小糸より筋の依り四と打中助包他

一 助包 中上他 右刀筋細く長く唐紙  
切さる約々根柢同地を長く及くと  
ましく光る大さく根柢とくたうる刀筋  
札及び是とよく焼く他は沸騰又或  
と唐紙焼くもよく又色白く但ま  
筋根小き一つとくたうる是二条院長  
保乃ちらぬ丸の他もく同格一文字  
う子小く是の及乃筋又小くは常  
又大筋乃助包あり以上三人互に筋  
小糸より筋の依り四と打中助包他  
と打後の大筋ふらひるげく二字打之  
助平 中上他 永延の法は右刀の筋細く  
長し大札又の上より沸もよく又の筋細く  
小似たり根柢同地を長く及くとよく又  
色白く及く是とよく焼く他は沸騰又或  
と唐紙焼くもよく又色白く但ま  
筋根小き一つとくたうる是二条院長  
保乃ちらぬ丸の他もく同格一文字  
う子小く是の及乃筋又小くは常  
又大筋乃助包あり以上三人互に筋  
小糸より筋の依り四と打中助包他  
吉包 下上他 貴和の法は右刀の筋細く  
長く及くとよく根柢同地を長く及くとよく又の筋細く  
小似たり根柢同地を長く及くとよく又  
色白く及く是とよく焼く他は沸騰又或  
と唐紙焼くもよく又色白く但ま  
筋根小き一つとくたうる是二条院長  
保乃ちらぬ丸の他もく同格一文字  
う子小く是の及乃筋又小くは常  
又大筋乃助包あり以上三人互に筋  
小糸より筋の依り四と打中助包他

推之五百四十年乃長房より長和迄二百四十年  
二年安徳天皇の年号より長和迄あり

### 同右倭前一派之系男

長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
元永親長和永長永親永親正長房の  
長房より長和十八年中之長房正長房の  
一系流小正出され長和倭前父子小正親を  
打りしり。永長二年

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友安

友安。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 友成

友成。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

### 同右倭前四物之系男

一、友成 中上化 永延乃比之方乃の倭前  
結せしと友成、長房、一、長和同いれ  
色、男、ら、ん、礼、又、と、備、備、を、と、細、く、焼、中  
て、長、房、を、後、つ、り、の、考、之、地、を、去、り、去、り、  
い、ん、て、て、て、て、て、と、之、又、之、之、之、之、之、之、  
う、れ、や、れ、白、く、又、ふ、り、り、り、り、り、り、  
う、れ、ら、い、化、不、治、く、す、百、板、あ、い、り、ま、  
佛、乃、下、化、小、佛、と、焼、く、佛、を、と、た、け、  
大、鴨、時、本、常、表、不、判、と、切、と、け、り、短、  
と、う、短、と、も、う、り、り、り、り、り、り、  
と、と、か、く、長、文、乃、方、乃、の、倭、前、系、小、  
長、房、系、と、打、く、長、房、系、小、長、房、系、小、  
と、う、の、倭、前、系、の、時、初、秋、の、月、ひ、ら、く、る、乃、  
代、る、也、と、大、鴨、の、倭、前、系、と、打、又、り、  
友、成、他、乃、打、く、長、房、系、小、長、房、系、小、  
長、房、系、小、長、房、系、小、長、房、系、小、  
以、外、他、系、乃、比、一、人、を、と、め、り、及、ば、ず

### 倍房

倍房。倭前系同長和より長和倭前倭前系  
長和。倭前系同長和より長和倭前倭前系

高平 中上 依房才之  
護樓永保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 依房下護第  
長同君穴下  
兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

高包 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

言民 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

負垂 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

行光 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

未行 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

永富 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

真依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

宗依 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

國總 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

清 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

信房 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

包平 中上 兼保分永保比  
在平兼保比

角前四包平

角ニ小肉之依様等西ニ包ニ  
八様大芝蔭と包の上ニ

。私田は遠近承の以とも兼保と  
一系は承延一あり川は兼保と八十八年乃  
一あり。然國同後包平ハ河内三人依之不

一國總 兼下上 兼保比

。兼保比 兼下上 兼保比

角ノ小肉之伊核下

備前國長取湯之系名

近忠。長取乃之孫也。光忠父之方刀切之。平家三死云。

忠近。忠忠父也。

安忠。光忠父也。元之孫也。

景秀。安忠父也。同。伊核也。心先刺以。切之。正元也。

系州。系秀子也。永仁の以。主權。

俊光。系州子也。

康久。俊光子也。

次光。康久子也。系州の以。

系安。系州の以。

直長。光忠子也。弘安の孫の以。

光長。直長子也。弘安の孫の以。

長重。光長子也。永親の孫の以。

為系。元亨の以。

女子。

義秀。為系子也。系安の以。

長義。光長子也。光長の孫の以。弘安の孫の以。

長義。二代目也。安の孫の以。弘安の孫の以。

長義。長義子也。

康光。長義の以。

光忠。系州の孫也。大上之孫也。長取の孫也。後醍醐天皇の孫也。建治の孫也。元亨の孫也。

長光。光忠父也。同。伊核也。心先刺以。切之。正元也。

長光。長光子也。系州の以。

長光。長光子也。系州の以。

系光。系州の孫也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

系光。系光子也。弘安の孫の以。

一 善光子孫無似類  
代々善光子孫云

善光 善光子孫  
代五光同

吉光 善光子孫  
善光の以の云

光弘 善光子孫  
時代同

光久 善光子孫  
時代同

經家 善光子孫  
善光以

經家 善光子孫  
善光以

倫光 善光子孫  
時代同

忠光 善光子孫  
時代同

貞光 善光子孫  
時代同

光泰 善光子孫  
時代同

重光 善光子孫  
時代同

善安 善光子孫  
時代同

有光 善光子孫  
善光以

忠光 善光子孫  
善光以

女子

清光 善光子孫  
善光以

勝光 善光子孫  
時代同

基政 善光子孫  
時代同

素光 善光子孫  
右同

信守 善光子孫  
右同

守元 善光子孫  
右同

宗光 善光子孫  
善光以

宗光 善光子孫  
善光以

長光 善光子孫  
善光以

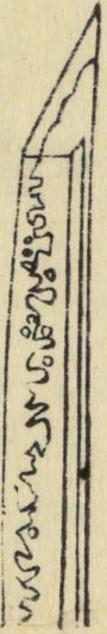
久光 善光子孫  
善光以

家助 善光子孫  
善光以

一 類として一れ二子孫の何れを刀の目貴穴  
乃上帯表おすの刀の柄面目貴穴乃  
下に打つて善光の先片山打也

一 光忠 中化 後深系善山後守多院の  
初中をわたりた刀乃善山後守多院の  
よれ綿不及びて善山後守多院の  
切流亦中之地を善山後守多院の  
め多ありありなり善山後守多院の  
丁子及び上よ善山後守多院の  
と地海く丁子及び上よ善山後守多院の  
も善山後守多院の  
地法と善山後守多院の

光忠



一 善光 中上化 後守多院建治法安又  
之伏見流正徳永承元等



益光外社 建武乃はつたりの所馬鹿  
 く唐兵切洗乃のり又勝越とく勝平  
 又方針上中く丸とめ守とら船板同望  
 馬あ小自死くさ小礼改と燈下子ハ特  
 した力の氣光中から信礼改とるおや  
 唐兵改お西の足の入る色さ又さ三馬  
 刀ハ船板乃のり清あめのり乃の氣  
 光より色さ派さく橋と唐く他さく  
 られた小横目め船さうりさ化あり  
 備光師光の益光あさりさる備光  
 う、船より氣光のり氣光お船より但  
 礼乃の又より色や又さささ氣も極とく  
 義光うひり一益光の拖綱く隊より  
 相りお益光ささ刀の派ハ船くささ  
 又兼光おさささささ向さ小礼改  
 或ハ細直改とく切洗も船心さお船  
 さの益光乃のりさ船ひらく板目おの  
 ざり直改およハ他りく又さ太の二船切  
 船乃上さ利さりささささささ

備前長船兼光

貞長 下 老忠子ハ弘安の氣  
 ちく又永仁の比さ刀の氣もえ小船より  
 おんどりさささ切洗物とや極  
 と極くく丸改と地ささ小礼とや  
 下と極たのり色極りたさお船  
 上く船よりさ切洗乃の直改お女  
 兼光ハさささささりおささ改さ  
 く船板同ささささ又直改とくま  
 江乃がささ出ささささ改とさ二  
 家派と打小派と。出来極兼光小似  
 かり兼光よりささ別と船ささ改を  
 乃の兼光より改女を乃一改のさ  
 かり別乃船ささ改併さ

備前国長船住貞長

貞元三年八月日

兼光一弘安より弘安と廿六年平治より

兼光外社 兼光より弘安乃のさ刀の  
 船乃上さりつた船ひらく唐中切洗も

中極と申すは、その力多し一服を味すべし  
 わるく地をこき一札又と焼くは、焼くは、大  
 ろきと下子とを、焼くは、焼くは、又、焼  
 らんとく、あや、焼くは、焼くは、又、焼  
 一切の肉を、焼くは、焼くは、又、焼  
 中、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 長義、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 治世、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 板、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 大、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 ら、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 肉、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 焼、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 焼、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼  
 焼、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼くは、焼

備前長船住長義

長船 兼安の子 伏見流石

長則 永仁六年六月



備前長船住長義

長則 永仁六年六月  
 永仁六年六月  
 永仁六年六月  
 永仁六年六月

備前長船義光

備前長船義光

備前長船義光  
 備前長船義光  
 備前長船義光  
 備前長船義光

備前長船義光  
 備前長船義光  
 備前長船義光  
 備前長船義光

備前長船義光

弘忍と焼下ふの傍く又ふまきりて宗形  
又とありぬのさうくちかぢ

備前長船住元重

角

近系 去取系元重。花室流内子  
飯方系系元重光二施中うぢ  
やうかきん ちがぢ

備前長船住近景造 文保元年五月日

備前國長船住近景

角ノ内 元重三年三月日

守安 去取系元重不見。後光景流内子

角ノ内

備前長船守安 角

貞治三年二月日

光弘 去取系元重不見。及系融流内子

角ノ内

備前長船光弘 角

貞治三年四月日

備前長船光弘

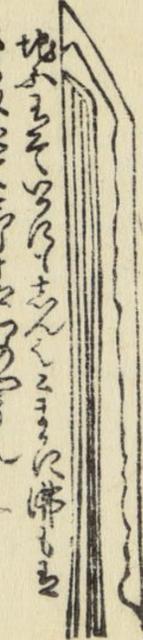
角ノ内 永享三年三月日

一 渡家 系元不見け字本の内

角ノ内

備前長船渡家

角ノ内



重真 去取系元重不見。後光景流内子

備前長船住重真

角ノ内 元重三年二月日

一 助久 去取系元重不見但助久一人福屋

角ノ内 系元三年三月日

備前長船助久 依系一代船住

一 吉元 去取系元重不見福世有之

備前長船吉元 角

角ノ内 元重三年三月日

一 守政 去取系元重不見一代船住

備前長船守政

角ノ内 元重三年三月日

備前長船守政

一守末

角三十四  
一備前長郡守末

一代郡治

系不元  
守末。角三十四

△備前福屋一文字之系也小能

定則三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

則宗三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

則宗三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

成宗三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

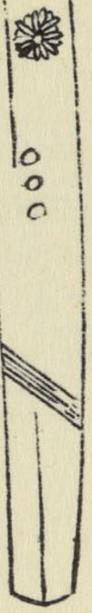
助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

助成三系院平法は是子孫の年号也  
三系院平法は是子孫の年号也

勢りりぬの強き帯表同黄穴の上  
ふ別宗化と打又より一み多と打る也  
もこの目黄穴の上ふ打今一人別宗二  
路に打振者長取ふる是も上より  
胸中と中札又ふ焼く是の底並取と  
焼振お目いふと細く焼おの初ふ順子  
乃出度やふく細り中ふの底焼  
別宗ふ細りあふ去取と打振り

倫前因則宗

ち四合年その教十六考の秘の下二  
ふは多れ階の四作と云く



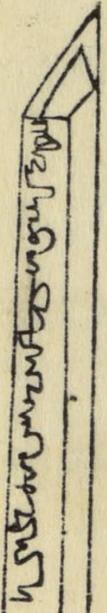
角ニ小肉わつれ曰

一安則

ヤスリ  
ミトト上 別宗子刑アた其元符の  
以去の乃海細く取るく焼せがけ振松目  
唐源一焼く是も唐の久を焼く取る  
是めに佛がくくく小札と焼去力  
乃南の別宗ふ細りあふ去取と打振り

ハ又ふ空ふおまり今一人安則と打振路  
考はふふる仍平が片子尻空と云是  
多り去力乃海細く取るく焼せがけ振松目  
物小細り小札又も度又も焼く取  
焼一焼く白く又を取一ト化かり  
一 助宗 主中上 別宗子女別く片大二取  
字と云元唐の底中振治小入去力乃海  
福原く切焼のひく唐中名条と打る  
去力ハ細一取又二字ふ後ふ細り二字  
と焼りりひ取打去力ハ又とより是り  
焼札又と焼くとり是乃又乃焼く  
と焼りり振松目法く焼く是も焼く  
は是めお目一ぬと焼く是も焼く  
いふも細く焼く一焼又と焼く焼く  
ふ大一文子と云是の焼雲とより  
美いハ信自他道とより是と助宗  
着化ハ中と又美化ハとより

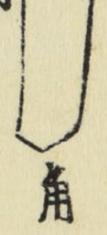
助宗



一助成 ト上主 元曆乃法之方乃勢女  
楊原ノ房中飯松目小地を去りぬ  
礼及と燻灸及乃小助を灸より除き  
あり及と灸く<sup>ス</sup>とく<sup>ク</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>す<sup>ス</sup>た<sup>タ</sup>と<sup>ト</sup>極  
とぬ<sup>ヌ</sup>く<sup>ク</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>ク</sup>香<sup>カ</sup>煎<sup>カ</sup>灸<sup>カ</sup>加<sup>カ</sup>り<sup>ク</sup>と<sup>ト</sup>上<sup>上</sup>を<sup>上</sup>小<sup>小</sup>助  
と<sup>ト</sup>見<sup>見</sup>く<sup>ク</sup>より<sup>ヨリ</sup>物<sup>モノ</sup>の<sup>ノ</sup>流<sup>リ</sup>ハ<sup>ハ</sup>助<sup>助</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>ト</sup>打<sup>打</sup>下<sup>下</sup>子<sup>子</sup>

助重。  


角ヲ小肉あり并横ト土月の  
番うちに入らちの者入て後ハ重の  
字成とす

一文字  
助重作。  


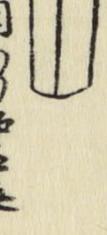
角ヲ小肉あり并月

一助直 スケサ 貞夜以助成<sup>ク</sup>又<sup>又</sup>より  
色<sup>色</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>乃<sup>乃</sup>勢<sup>勢</sup>及<sup>及</sup>多<sup>多</sup>く<sup>ク</sup>長<sup>長</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>女  
ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>初<sup>初</sup>洗<sup>洗</sup>物<sup>物</sup>し<sup>し</sup>飯<sup>飯</sup>松<sup>松</sup>目<sup>目</sup>洞<sup>洞</sup>水<sup>水</sup>肩<sup>肩</sup>あり  
及<sup>及</sup>乃<sup>乃</sup>勢<sup>勢</sup>大<sup>大</sup>一<sup>一</sup>文<sup>文</sup>字<sup>字</sup>小<sup>小</sup>能<sup>能</sup>似<sup>似</sup>り<sup>リ</sup>大<sup>大</sup>礼<sup>礼</sup>と<sup>と</sup>燻  
灸<sup>灸</sup>乃<sup>乃</sup>先<sup>先</sup>編<sup>編</sup>を<sup>を</sup>行<sup>行</sup>傳<sup>傳</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>ク</sup>又<sup>又</sup>也<sup>也</sup>不<sup>不</sup>  
か<sup>か</sup>や<sup>や</sup>る<sup>る</sup>流<sup>流</sup>分<sup>分</sup>の<sup>の</sup>あり<sup>あり</sup>地<sup>地</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>ク</sup>又<sup>又</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>あ  
かり<sup>かり</sup>能<sup>能</sup>か<sup>か</sup>乃<sup>乃</sup>及<sup>及</sup>と<sup>と</sup>得<sup>得</sup>る<sup>る</sup>燻<sup>燻</sup>出<sup>出</sup>す<sup>す</sup>忠<sup>忠</sup>標<sup>標</sup>角  
小<sup>小</sup>重<sup>重</sup>を<sup>を</sup>流<sup>流</sup>物<sup>物</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>助<sup>助</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>流<sup>流</sup>る<sup>る</sup>に<sup>に</sup>物<sup>物</sup>小

ハ強余乃助美ハ新化ハ人ハ人ト云流ハ  
助真。  


助真。

一助吉 社石ト上 一文字助則がも

助吉。  


一文字助則子標角ニ小肉あり并遠

助吉。

角ニ小肉

一助光 スケニツ 能同ト上 助吉がもに流乃法  
吉<sup>吉</sup>号<sup>号</sup>一<sup>一</sup>文<sup>文</sup>字<sup>字</sup>太<sup>太</sup>刀<sup>刀</sup>乃<sup>乃</sup>流<sup>流</sup>也<sup>也</sup>く<sup>ク</sup>も<sup>も</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>て  
房<sup>房</sup>流<sup>流</sup>一<sup>一</sup>飯<sup>飯</sup>松<sup>松</sup>目<sup>目</sup>流<sup>流</sup>く<sup>ク</sup>礼<sup>礼</sup>及<sup>及</sup>小<sup>小</sup>出<sup>出</sup>耳<sup>耳</sup>ト<sup>ト</sup>是  
と<sup>と</sup>燻<sup>燻</sup>て<sup>て</sup>物<sup>物</sup>打<sup>打</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>重<sup>重</sup>又<sup>又</sup>小<sup>小</sup>是<sup>是</sup>と<sup>と</sup>燻<sup>燻</sup>入  
し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>忠<sup>忠</sup>の<sup>の</sup>難<sup>難</sup>股<sup>股</sup>が<sup>が</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>字<sup>字</sup>を<sup>を</sup>入  
を<sup>を</sup>打<sup>打</sup>く<sup>ク</sup>ト<sup>ト</sup>小<sup>小</sup>飯<sup>飯</sup>流<sup>流</sup>玉<sup>玉</sup>吉<sup>吉</sup>号<sup>号</sup>流<sup>流</sup>紀<sup>紀</sup>助<sup>助</sup>を<sup>を</sup>と  
打<sup>打</sup>又<sup>又</sup>官<sup>官</sup>重<sup>重</sup>と<sup>と</sup>打<sup>打</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>之<sup>之</sup>助<sup>助</sup>流<sup>流</sup>助<sup>助</sup>義<sup>義</sup>

一助光 スケニツ 能同ト上 助吉がもに流乃法  
吉<sup>吉</sup>号<sup>号</sup>一<sup>一</sup>文<sup>文</sup>字<sup>字</sup>太<sup>太</sup>刀<sup>刀</sup>乃<sup>乃</sup>流<sup>流</sup>也<sup>也</sup>く<sup>ク</sup>も<sup>も</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>て  
房<sup>房</sup>流<sup>流</sup>一<sup>一</sup>飯<sup>飯</sup>松<sup>松</sup>目<sup>目</sup>流<sup>流</sup>く<sup>ク</sup>礼<sup>礼</sup>及<sup>及</sup>小<sup>小</sup>出<sup>出</sup>耳<sup>耳</sup>ト<sup>ト</sup>是  
と<sup>と</sup>燻<sup>燻</sup>て<sup>て</sup>物<sup>物</sup>打<sup>打</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>重<sup>重</sup>又<sup>又</sup>小<sup>小</sup>是<sup>是</sup>と<sup>と</sup>燻<sup>燻</sup>入  
し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>忠<sup>忠</sup>の<sup>の</sup>難<sup>難</sup>股<sup>股</sup>が<sup>が</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>字<sup>字</sup>を<sup>を</sup>入  
を<sup>を</sup>打<sup>打</sup>く<sup>ク</sup>ト<sup>ト</sup>小<sup>小</sup>飯<sup>飯</sup>流<sup>流</sup>玉<sup>玉</sup>吉<sup>吉</sup>号<sup>号</sup>流<sup>流</sup>紀<sup>紀</sup>助<sup>助</sup>を<sup>を</sup>と  
打<sup>打</sup>又<sup>又</sup>官<sup>官</sup>重<sup>重</sup>と<sup>と</sup>打<sup>打</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>之<sup>之</sup>助<sup>助</sup>流<sup>流</sup>助<sup>助</sup>義<sup>義</sup>

は致同ハ

一助光 スケニツ 能同ト上 助吉がもに流乃法  
吉<sup>吉</sup>号<sup>号</sup>一<sup>一</sup>文<sup>文</sup>字<sup>字</sup>太<sup>太</sup>刀<sup>刀</sup>乃<sup>乃</sup>流<sup>流</sup>也<sup>也</sup>く<sup>ク</sup>も<sup>も</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>て  
房<sup>房</sup>流<sup>流</sup>一<sup>一</sup>飯<sup>飯</sup>松<sup>松</sup>目<sup>目</sup>流<sup>流</sup>く<sup>ク</sup>礼<sup>礼</sup>及<sup>及</sup>小<sup>小</sup>出<sup>出</sup>耳<sup>耳</sup>ト<sup>ト</sup>是  
と<sup>と</sup>燻<sup>燻</sup>て<sup>て</sup>物<sup>物</sup>打<sup>打</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>重<sup>重</sup>又<sup>又</sup>小<sup>小</sup>是<sup>是</sup>と<sup>と</sup>燻<sup>燻</sup>入  
し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>忠<sup>忠</sup>の<sup>の</sup>難<sup>難</sup>股<sup>股</sup>が<sup>が</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>字<sup>字</sup>を<sup>を</sup>入  
を<sup>を</sup>打<sup>打</sup>く<sup>ク</sup>ト<sup>ト</sup>小<sup>小</sup>飯<sup>飯</sup>流<sup>流</sup>玉<sup>玉</sup>吉<sup>吉</sup>号<sup>号</sup>流<sup>流</sup>紀<sup>紀</sup>助<sup>助</sup>を<sup>を</sup>と  
打<sup>打</sup>又<sup>又</sup>官<sup>官</sup>重<sup>重</sup>と<sup>と</sup>打<sup>打</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>之<sup>之</sup>助<sup>助</sup>流<sup>流</sup>助<sup>助</sup>義<sup>義</sup>

元夏二二月月

○助光

とら丸  
とら下内  
とら丸の格

一光助 助者子と云く 示見不見  
元弘

○光助

存角ノ伊秩  
助者子  
元助

一助家 主下上 成宗が子助家うぶ

住  
一 備列吉延住助茂

角ノ伊秩 貞和三年十月

一助義 能下上 助家うぶ

凡助義尤寸之格もあす

一 備列吉延住助義

建武二年八月日 徳三年三月日

彼方を云く云く云く

一 助義

一 助房

二代

物ノ下上 係見

○助角

角ノ伊秩

一 長則 別色うぶ之注を物ノ内後  
乃本則と小注と云り本取の別と云り

下物物物  
長助

角ノ伊秩 号小孫下

△同伎茶園福屋一文字之系家

助行

壽永のはにん祖之則くひとの子  
則宗といふことと云り乃乃後園要と云り

助延

助行ノ下後後  
元唐以

行園

助延才更  
法入日法

助行

助行  
ふり子

久宗

助行  
助者子

行高

助行  
元唐以

助久

主下上 系見 助延子

○名蓋 徳茶園福屋

一徳物 祖文

助久。。

持用ニ河内

△同備前國福尾一文字之系家

延房。番船係大隅持守と号無細あり。上の長と云ふなり。及子孫傳

宗吉

。延房子  
番船より入

時代同一延房宗吉  
宗吉は兄弟の一人  
諸事表目費穴上  
不考と爲のり大  
形信を他中平  
うらんと云ふ

延心

。延房子  
下。建暦  
之房より順徳院  
建暦は房の弟  
後伯と稱あり  
六十歳在生

吉房

。宗吉子  
房吉子  
時代延心同

吉房

。宗吉子  
左奥對之  
号伊吉

吉元

。宗吉子  
伊吉子  
右邊延時代吉房  
同平宗吉在生  
後源宗吉山渡河守

吉守

。宗吉子  
右守仁治

依宗

。宗吉子  
兼文

宗安

。依宗子  
天徳

宗忠

。宗吉子  
或ハ横

則依

。伊吉妻  
云云

昭依

。伊吉子  
云云

宗長

。宗吉子  
伊吉下

眞真

。宗長子  
眞久

康初

。宗長子  
伊吉下  
代眞真同

眞行

。宗長子

眞吉

。眞真子  
天徳

吉真

。康初子  
室徳

眞利

。吉真子  
後源宗俊

眞光

。吉真子  
眞行子

分  
延房。中上之房以之乃細く  
多一孫より此切洗約小房中  
拓目地を慮りて之を言一丁子  
大を不礼及も悔之辨議を以て  
其及を言ふに白一三月乃中  
これより乱と云ふ。後源宗俊  
日本源治上之長と在下之長  
宗吉





物ノ中投ト大ニテ子又小焼ト  
子又焼ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
ツヨリ切洗乃内ト云々ト云々ト云々ト  
礼又小焼ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
ハ白ク又云々ト云々ト云々ト云々ト  
後乃云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト

△同福長一文字之系圖

守近 宗長味聲ノ 宗家 守近子伊

守家 伊直直 乃上三打守家父

守家 伊直直 家助 守家子伊直

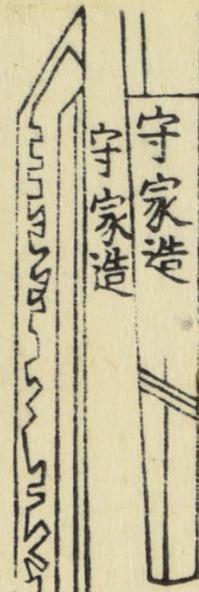
家安 伊直直 真守 家安子

家信 伊直直 宗恒 家信子

經家 伊直直 守俊 經家子

守近 伊直直 守成 守近子

守乃内小打伊直直一始守成あり  
子も経家大あり内ハ希表同其穴のト平  
守家 経中上知 後継系流云治の比  
昌田位太乃伊直直一始守成あり  
一継世同初も地之底云々ト上信ト  
子又乃上テ孫中亦ト子又ト云々ト  
ト下子又ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
乃孫中一ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
ト必守孫中一ト云々ト云々ト云々ト  
孫中ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト  
乃孫長光亦伊直直一始守成あり  
孫中又二至ト子ハ一ト孫中ト上信ハ  
ト上物大流亦打内同其穴のト小守  
後世ハ小孫中ト云々ト云々ト云々ト  
後長亦亦一人あり長孫中ト云々ト



一 雲生  
一 雲同  
一 女子  
一 雲次

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

一 雲同 比心持 同又

一 女子 比心持 同又

一 雲次 打つる他一人あり 一代り

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

一 雲同 比心持 同又

一 雲次 打つる他一人あり 一代り

一 女子 比心持 同又

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

一 雲同 比心持 同又

一 雲次 打つる他一人あり 一代り

一 女子 比心持 同又

### △同伎前國物之系馬

雲生 伏見院二無比又云花を院延登  
比々世々乃正一年お陽方

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

一 雲同 比心持 同又

一 女子 比心持 同又

一 雲次 打つる他一人あり 一代り

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

一 雲同 比心持 同又

一 雲次 打つる他一人あり 一代り

一 女子 比心持 同又

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

一 雲同 比心持 同又

一 雲次 打つる他一人あり 一代り

一 女子 比心持 同又

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

一 雲同 比心持 同又

一 雲次 打つる他一人あり 一代り

一 女子 比心持 同又

一 雲生 打つる他一人あり 一代り

中ノナナノ事ハ、  
 仁治以。若、西同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。  
 仁、治、以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。  
 仁、治、以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。

△因備系大支物之系

仁治以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。

助威 仁治以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。

女子 仁治以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。

威則 仁治以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。

威素 仁治以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。

次威 仁治以。若、西、同、其、穴、上、三、路、打。  
 幸、夏、同、其、穴、の、下、の、穴、大、其、穴、打。  
 伊、河、も、一、れ、い、通、其、穴、大、其、穴、打。  
 徳、三、た、り。

一 招中、生、四、の、山、城、四、孫、徳、遠、大、其、穴、打。  
 一 招中、生、四、の、山、城、四、孫、徳、遠、大、其、穴、打。  
 一 招中、生、四、の、山、城、四、孫、徳、遠、大、其、穴、打。

一 國威 角、ノ、小、内、あり、伊、河、下。

延承三年七月國威  
 以、對、上、也。

△佐前連宗三系

連宗 佐前、連、宗、三、系。

國真 佐前、連、宗、三、系。

國員 佐前、連、宗、三、系。

國宗 佐前、連、宗、三、系。

國安 佐前、連、宗、三、系。

一 國宗 中ノ上。

〇 皇宗院 佐前、連、宗、三、系、上、父、下、下、ハ、主、也。  
 曆、仁、比。

〇 皇宗院 佐前、連、宗、三、系、上、父、下、下、ハ、主、也。  
 曆、仁、比。

。國宗



。國宗。

角ノ下口



。國宗。

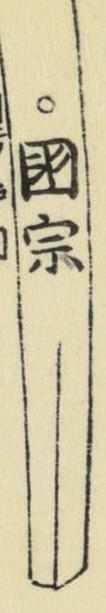
角ノ小肉あり

角ノ下口



。國宗。

角ノ下口



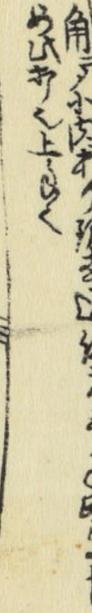
。國宗

角ノ下口



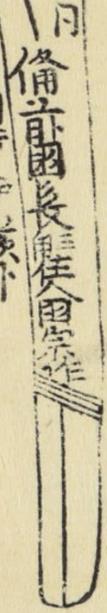
。國宗

角ノ小肉あり



。國宗

角ノ下口



備前國長門佐國宗

角ノ下口

一 近包

近下と建久はくち刀の若吉平

あつり根柢固ありけり身あり地も  
あつり下子及乃海言あふ地より切流  
乃肉と地及りりや細く情と又のろ  
き一腹乃心ありたりや

。私曰近恒が近包と云は流安乃近恒曰付  
乃年号と系安と云は流安乃建久  
と云は百年号と云は系安と云は流安と云は  
近包と云は建久の流安と云は流安と云は  
系安と云は流安と云は流安と云は流安と云は

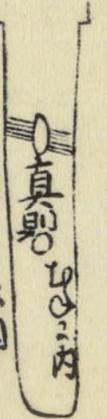
利恒 近恒が子と云は系安と云は流安と云は



利恒

角ノ下口

一 真則 近下と 乃根近恒より又代と流  
村等が子と云は流安と云は流安と云は流安と云は



真則

角ノ下口

又一代根近恒

あつり流安と云は

一 則房 下上 順連院系久之出又之信源  
 系院系流の法とて之を其の年相傳ふる  
 但し仍舊之信源の事乃 系院系不見  
 右方の出友多々 持厚院房中 頼松同  
 後之とて之を其の年相傳ふる  
 又乃大分之分ら以細く取及ふも之を  
 下子及乃乱是を境へあり 轉入く小乱と  
 して之を其の年相傳ふる  
 然波と云大刀之油とあり 失り  
 一 景依 押形系 系久之信源  
 物れ形之信源中とて之信源院中在ふ  
 系院系不見 秘傳云又信源とて之信源

一 景依 景依  
 角ノ河内

二 景依 景依  
 角ノ河内

一 真高 眞高 眞高  
 眞高 眞高 眞高  
 角ノ河内

一 眞高 眞高  
 角ノ河内

一 吉信 吉信  
 角ノ河内

一 吉信 吉信  
 角ノ河内

一 則次 則次  
 角ノ河内

一 則次 則次  
 角ノ河内

一 守恒 守恒  
 角ノ河内

一 守恒 守恒  
 角ノ河内

一 守吉 守吉  
 角ノ河内

一 守吉 守吉  
 角ノ河内

一 吉氏 吉氏  
 角ノ河内

一 吉氏 吉氏  
 角ノ河内



高之振平俊成... 一統何れ申中... 方より、仍年六十... 傳之... 承... 承...

為則 別号... 建曆以... 承...

心恒 別号... 建曆以... 承...

一以心恒... 建曆以... 承...

則常 別号... 建曆以... 承...

常遠 別号... 建曆以... 承...

宗遠 別号... 建曆以... 承...

常依 大三日

助真 常... 建曆以... 承...

則房 別号... 建曆以... 承...

女子 別号... 建曆以... 承...

恒真 別号... 建曆以... 承...

恒永 別号... 建曆以... 承...

末圓 別号... 建曆以... 承...

宗恒 別号... 建曆以... 承...

宗忠 右... 建曆以... 承...

恒清 別号... 建曆以... 承...

宗恒 別号... 建曆以... 承...

宗忠 右... 建曆以... 承...

心恒 別号... 建曆以... 承...

安恒 別号... 建曆以... 承...

弘直 別号... 建曆以... 承...

安家 別号... 建曆以... 承...

末真 別号... 建曆以... 承...

行忠 別号... 建曆以... 承...

行真 別号... 建曆以... 承...

助成 別号... 建曆以... 承...

有末 別号... 建曆以... 承...

心恒 別号... 建曆以... 承...

心恒 別号... 建曆以... 承...

心恒 別号... 建曆以... 承...

心恒 別号... 建曆以... 承...

心恒 別号... 建曆以... 承...

忠侯押取乃ぬい候系正恒七権の内を  
恒清とす上正恒うま

恒清  
角ノ小肉之恒清

恒真 恒清也

恒真  
角ノ小肉之恒真

此系正恒七権の内を恒清とす  
系正恒七権の内を恒清とす  
常遠 正下と 別より居候

常遠  
角ノ小肉之常遠

宗遠 純下と 常遠より  
角ノ小肉之宗遠

宗遠  
角ノ小肉之宗遠

真系 系正恒七権の内を  
角ノ小肉之真系

真景  
角ノ小肉之真景

右ノ外

時真 恒清也 一 恒清  
一 恒清

光重 一 重末 一 景高代  
一 重末

為信 一 行利 一 在弘  
一 行利

弘恒 一 真行 一 景重代  
一 真行

安弘 一 有弘 一 有弘  
一 有弘

△同候中物之系正恒七権 表ノ内

守次 近清遠ノ人安乃候事に別も元  
一 守次

守次 一 守次  
一 守次

守次 一 守次  
一 守次

守次 一 守次  
一 守次

守次 一 守次  
一 守次

守次 一 守次  
一 守次

守次 一 守次  
一 守次

守次 一 守次  
一 守次

久次 恒清也  
一 久次

康次 恒清也  
一 康次

〇及書 恒清也  
一 〇及書

中 九十六

吉次

久次子  
兼次比

貞次

整次子  
善形徳入

家次

守次子

次家

元曆比  
守次子善  
細い善形徳入

家久

守次子  
元曆比

次家

又と同義  
又の長次郎  
畜と動る

俊次

建曆の次  
次郎

次植

助次子  
建曆比

包次

俊次子  
建曆比

有行

建曆比  
建曆比

安次

建下と  
建方又忠  
角三ノ刀並遠

宗次

建次子  
天福比

末次

志日比

恒次

志日比

行次

貞次子

貞次

仍次子  
投日徳比

延次

貞次子

真次

建次子  
建次子  
昔三條  
三十一年以前

助次

俊次子  
兼次比

有次

包次子  
天福比

是重

志日比  
天福比

安次

建下と  
建方又忠  
角三ノ刀並遠

一 恒次

建中

元曆比  
安次孫  
善形

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

角三ノ刀並遠  
恒次  
角

備用國一ノ金釘。彦住左兵衛尉恒次

文保三ノ二月日

角三ノ刀並遠

角三ノ刀並遠

一貞次 於中 國以是能治守次之男之  
方乃其細の以治せが地を馬ノ端  
かど小礼又小梅抄并乃而之廣直又小  
小足之入之極之佛もろろ大礼又もり  
又之也一其為常之流の事裏因費  
乃下ひ代方小貞次と并并大車也先  
山形之同流は小あり並及之極は他力  
と也他之極小あり之と之り也一流を  
彼中國位大満持介平貞次と并但貞  
次と并打すもあれと次乃ま乃ほり  
かりりも初小及家

備中國。佳。朱。大。即。貞。律。

角。天。戶。日。嘉。曆。三。年。十。月。日。

康。永。三。年。二。月。廿。

備中國住人尤兵部尉直次作。

○切

二流三原相後易位と有之は傳國屋也

修

備中國。佳。大。陽。權。子。貞。次。

角。三。年。九。月。日。貞。次。已。之。流。

△備中一政宗の地所と大隅持事と早守と系也及

修

貞次。切

是ハ其の貞次より之也

一 家次 きて 片内と云太刀乃流暢  
あそく唐流く切流乃下下足小礼也  
礼と云く系流の入とく大一政宗小ま  
よりく之他又是もろろとくより一  
一長刀と好く他は忠とくく大車  
邦丸山彼中國遊次他と并又二重流  
も其也下て彼中乃太刀の大助一長乃  
流之流救多あれは別小助りも其れ  
るよりく言ふも小及家守次四男

備中國住家次作 應永五年會

一 次家 於中 家次り背之先屬江古刀の  
家及事一孫かいらもそりより棟原  
あそく信也く唐流一地之也一て流  
をさあり小礼又とやく他一中禮り  
是入礼と廣く極之又之也同小  
忠の連連守棟小内五流の同是六下  
ふるのり



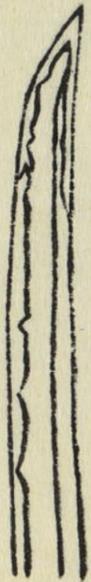
一包次 毛下上 番飛次 次郎 孫傳次郎  
中々 達磨の所と云々。先書りては忠  
於傳次郎の所に入り給はる系云々云々  
今まの系云々云々云々云々云々云々

角ノ小肉あり

大和孫四郎にあり

直次 毛より以下飯中系云々云々

直次



角ノ小肉あり

備國住次吉 切

真次と云々

建武二年十月日

一次吉 系云々不見一代飛次

備國住次吉 用

康安元年八月日

備中國住次吉 貞和二年二月日

角ノ小肉あり

・將中國住次吉作

延文二年八月日

備中國住次吉 作曆應享十自

角ノ小肉あり

角ノ小肉あり

火吉

康永元年と云々云々

備中國住次吉 文和五年三月日

角ノ小肉あり

私考言曆應享三年より康安元年二年之

一吉次 角ノ小肉あり

又系圖下 抄流物八〇吉次 但及一代飛次

一卷次 角ノ小肉あり 備國住次吉 角

正平〇八年三月日

備國住次吉

一次忠 角ノ外 次忠

角ノ外 次忠

弘次 下上代服 角ノ外 弘次

○ ○ 方城

古次 角ノ外 切

秀次 角ノ外 秀次

秀次 角ノ外 秀次 切

長次 倫中国 往長次作 角

天保十年十月日

一 家恒 近角ノ外 家恒

朝次 朝次

角ノ外 朝次

延次 角ノ外 延次 切

茂次 角ノ外 茂次 角

守恒 角ノ外 守恒 切

規次 角ノ外 規次 貞和二年二月日

重次 角ノ外 重次 角

右之外

次忠 一代 次忠 一代

次秀 一代 次秀 一代

次弘 一代 次弘 一代



備後住正家

一正廣 世下上。後小松院永永以左の  
 爲く、廣く切洗とく、唐多く、唐山記  
 飛石月り、とく、唐之、後、の、多、地、を、自  
 月、の、海、中、と、小、礼、収、お、懸、て、え、の、廣、妻、  
 かり、礼、収、乃、平、の、多、の、沸、も、く、お、や、  
 お、ま、く、の、の、く、さ、え、の、廣、妻、収、乃、平、沸  
 ら、収、切、え、乃、四、か、い、と、お、一、丸、く、り、  
 と、く、懸、お、け、り、上、と、く、唐、の、後、別、作  
 正、廣、と、考、表、お、打、右、端、お、て、お、  
 一、同、緒、二、代、と、く、唐、終、り、と、く、唐、  
 と、く、唐、中、右、方、の、と、く、唐、も、く、唐、  
 と、く、唐、と、懸、く、り、と、く、唐、の、地、の、唐、  
 唐、の、を、唐、正、廣、他、れ、刀、多、く、と、く、唐、  
 唐、く、く、れ、正、廣、の、唐、の、唐、唐、

△備後四善田新助の系図

一 備後四善田新助の系図

大薬師様おくく、右、刀、力、大、尺、同、唐、  
 乃、下、お、打、お、り

魚行 助國才子 藤永正隆

行吉 助國才子 藤永正隆

秀次 右、刀、力、大、尺、同、唐、  
 乃、下、お、打、お、り

親次 右、刀、力、大、尺、同、唐、  
 乃、下、お、打、お、り

一系 秀次才子出流 藤永正隆

月系 一系才流、三系、と、く、唐、  
 乃、下、お、打、お、り

右之外

一貞次 一貞貞 一貞光

一四心 一魚吉 一魚守

一貞心 一正近 一賢正

一正直 一忠光 一正次

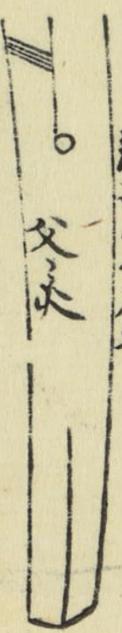
備後四善田新助の系図、  
 乃、下、お、打、お、り

二百四十七年... 院... 延文二年... 延文三年...

△攝津國物之系

吉氏 友氏 吉徳

一之延 吉氏



一友氏 吉氏が子津國天王よりとされ



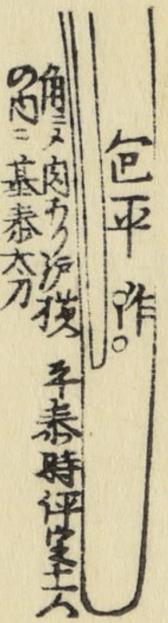
一國長 吉氏と号... 津の... 中乃



△河内國物之系

包平 有國 有成 有徳

一包平 中之上... 河内國... 包平



包平作... 包平

吉氏 吉氏

有成 下之上... 河内國

一國主 系... 河内 和泉

△和泉國和加知久野一系系

正清

後拍系後文系系正清は本名正清  
と号す所換下心元親の生母  
ハ依於安船と云ふ今元親六年と  
百九十二年

正清

正清子大永  
享禄天女伝

資正

正清子大永  
父正色心

清心

正清子大永  
心元親の

資次

正清子大永  
父正色心

政青

正清子大永  
換天女伝

常清

正清子大永  
換天女伝

清帝

正清子大永  
換天女伝

常清

正清子大永  
換天女伝

一 播磨助廣小お借給ふるの自と飛板目  
ありしころと女と煙物と沸き交ふ一  
力つとつとつとまき厚く寸本一梅成  
うらまひとつとつと自然あれはたふと  
まきとつとつとつとつとつとつとつと  
中巻終

